

皆さん、おはようございます。朝日放送の木戸と申します。事例紹介のトップバッターで、今日は長丁場の、冒頭なんですけど、よろしくお願ひいたします。現在はこちらに書いてますとおり、エービーシー・リブラの制作部というところに100%子会社なんですけど、制作会社のほうに出向しておりまして、早朝番組をひと仕事すましてまいりました。これから、私にとっては深夜に差し掛かってまいりますので、眠くならないようがんばりますんで、よろしくお願ひします。

私がお紹介差し上げますのは、この部分でございます。今年は災害がたくさんございましたので、もし朝日放送をご覧の方は、もしかしたら目にされたかも分からないんですが、ご覧になったという方、いらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。おそらくかなり広い範囲にしばしば発表されました、情報が発表されましたのでご覧いただいているかも分かりません。災害のときに6チャンネルを付けていただいていたいましたら、こういった強制表示を目にさせていただくことができているかと思ひます。

どういうことかといひますと、画面、テレビをご覧いただひている状況で、画面にこういうものがいきなり出てまいります。それはどういうことかといひますと、ここ「兵庫県香美町に」というふうにあるんですけど、この表示が出てくるのは兵庫県香美町にあるテレビにしか出てまいりません。デジタル放送のテレビには郵便番号で設置するとき位置情報を入れていただひているんですけども、それを判断をいたしましてテレビが自ら、自分の自治体にどうひい情報が出てひいるのかといひうことを判別をして画面の左側に表示をしてくれるといひうシステムであります。

どうひい内容を表示しますかと申ひますと、その自治体に特別警報が出た場合、それから、避難指示、避難勧告が出た場合。指定河川、洪水予報の出る、洪水情報が出る指定河川でレベル4以上、氾濫警戒水位以上のレベルに達した場合。それから、土砂災害警戒情報がその自治体に出た場合といひう4つの情報がこれを表示をするといひうかたちになってひいます。

例えは何々川に氾濫警戒情報レベル4といひうような状況もあり得ます。複数の情報が出てひいる場合は、それが一定期間でループをするようなシステムになっておひいます。

このシステムを作り上げるといひうか発案するにあたりましては、私が人と防災未来センターで研修をさせていただひいた際に、さきほどご講演でありました宇田川先生にもいろいろと指導いただきまして、このシステムを作る運びになりました。

そもそもなぜこういうものを作ったほうがいいかといひうふうに感じましたのは、2013年の9月、台風18号のこひういった被害で、果たしてその避難情報が、我々のテレビといひうものを通じて適切に出てるんだらうかといひうことを感じたので、その翌年の2014年に私は人と防災未来センターに研修出向といひうかたちで、記者をしながひ勉強に上がらせていただひいたんですけど、テレビ放送が本当に視聴者の命を守るために役立っているのかといひうようなことを感じたのが由来でした。

その翌年ですひので、私は人と防災未来センターに研修に来てるんですけど、台風が、大き

な台風がやってまいりまして、本社のデスクから呼び戻されました。L字放送をしたいから、木戸、君はその主担としてやってくれないかということで、台風のとくに L 字放送を始めました。

2014年8月9日にやってきた台風でした。8月9日から8月10日にかけて、かなり多くの自治体で避難勧告、避難指示が発表されました。Lアラートを通じて、私どもの放送局にも情報もたらされていたんですが、その際には、私どもシステム連携がまだできておりませんでした。ですので、L字情報は私はその情報を受けて、人海戦術といいますか、ほぼ私ともう1人担当者が、それぞれの自治体のホームページ等を確認をして、必要ならばその自治体に電話をして入力をする、手作業で入力するというかたちでやっておりました。

で、人と防災未来センターの研究者として、これを全て録画をいたしまして、各近畿の放送局別にどれくらいの時間で避難情報が放送できてたかということをもとめてみました。すると衝撃的な、こういう状況です。今、自治体がエリアメールなどで配信、市民に直接配信されるルートと、私ども放送局を通して配信されて放送するルートと二手あるんですけども、こちらはどんどん、どんどん早く伝わる状況になっているんですけども、自治体から放送局に来る分については、いろいろな手順を踏みますので、タイムラグがあるだろうという想定で、先ほどのようにテレビ放送を、全てのチャンネル、確認をしていただきました。しかも悲しいかな、自分が担当している L 字情報でどれくらいの成績だったかということをご自己評価をするという、ちょっとかなり悲しい自己採点だったわけです。

その結果、どういうことだったかといいますと、2014年のこの災害です。A局というのは私ども朝日放送です。そのほか、B局、C局、D局、N局というふうに書いておりますが、私どもは伝達タイムラグという先ほど示しました自治体が発表した発表時間、それから放送局に送られてきている時間にも実はタイムラグがございます。それがどれくらいあったかといいますと、平均で33分。つまり自治体が避難情報を出そうというふうに決断をしてから放送局に伝えるまでにだいたい30分かかってたということが分かりました。

そのあと、私どもはいろんな作業をして、先ほど申し上げたとおり入力作業を通して放送するわけですけれども、実際に L アラートでもたらさせている情報、それ以外の情報いろいろあったんですがその当時はまだ L アラートを端末上で見るしかありませんでしたので、Lアラートでいただいた情報のほうが実は時間がかかっておりました。それ以外は1時間38分で放送できているのですが2時間14分かかっていました。平均をしますと1時間半かかっているということになります。

ですので、発表されてからだいたい1時間半から2時間たたないと視聴者のところには伝わってないということが分かりました。他の局もほぼ同じくらいの時間がかかっていました。短かったのはN局さんだけでした。さすがだなというふうに思うしかなかったのですが、これを何とかどんどん普及しつつある技術によってカバーすることができないか。我々、人的資源の乏しい局でもこれを何とか速やかに、できるだけ速やかに伝えることができないかというふうに考えた次第です。

災害情報の現場では、「適時」「適切」「的確」「丁寧」という 4 つの方向性というのが必要とされています。「適時」というのはタイムリーに必要な情報を届けるということなんですが、手作業で入力しているために、我々は大幅に 2 時間以上も遅れていました。

じゃあ、その情報が適切かという、テレビの情報は自分に関係する情報が探しにくいというようなデメリットがございました。といいますのも私どもの放送局は近畿 2 府 4 県プラス福井の嶺南地方と三重の伊賀地方というかなり広いエリアをカバーしています。

さらに徳島でもご覧いただいておりますので、エリア全体では 230 の自治体がございます。

ですので、例えば和歌山で避難情報が発表されたときに、それが必要じゃない福井でもその情報を見ざるを得ないという状況にありました。有無を言わずその情報を見せられてしまうということが発生をして、自分に関係する情報は探しにくい。かつ、そういうたくさんの方が情報が出てまいりますので、表示時間が短くて見逃しにも不親切だということでもあります。

的確かどうかということは、実は先ほどの表にもありますとおり、見落としですとか伝達ミスとか勘違いというかたちで、結果的に誤報であったというケースも見受けられました。幸い、私どもの局ではなかったんですけども、そういうものというのはどこの局でも発生しうるなというふうなそのとき、感じた次第です。

それから、解除情報。発表情報はなるべく早くしようと思うんですが、解除情報もその自治体のホームページであるとか FAX 連絡を把握するしかありませんでしたので、解除情報を反映し忘れるというような状況も起こりまして、もうすでに解除されているにもかかわらず、テレビにはその情報が出続けているということもございました。

「丁寧」というと、それも不満足な部分がありました。何々市の一部地域というようなかたちで放送してしまいまして、実際、その詳細な地名は何処なんだということが分からないということが起こっております。

そこでこういう、郵便番号を利用したピンポイントで、その自治体だけに放送するというようなシステムを、私の発案で、弊社の技術チームがいろいろとがんばって作り上げてくれたというかたちです。若干詳しくご説明してまいります。

先ほど申しましたとおり、本放送を通じて放送しますと、このように上か下に字幕で出すんですけども、朝日放送のエリアで約 230 自治体、全てのテレビ一斉に表示されてしまうということもありました。それから多くの自治体から情報が発表されたときには視聴者個々に必要な情報は埋没してしまいました。

それから、この字幕情報は一瞬しか出ませんので、これを見逃すと情報を把握できないというようなことがありました。また L 字情報でこういうかたちで情報を流すんですけども、その場合は例えば A 自治体の避難情報を流した後、もう一度次にその自治体の情報が流れるまでにだいたい 30 分以上かかってしまう。つまり「あ、自分の自治体のその情報かな」と思いながら、次、出てくるまで待っていたら、その間に流されるというふうなこ

とも起こってしまいかねないという状況でした。

そこで郵便番号をもとにしたデータ放送での強制表示機能。データ放送というと皆さん、d ボタンを押すということを最初に思い浮かべられると思うんですけども、実はそうではございません。この情報につきましては d ボタンを押さなくても表示をされます。その自治体で当該の情報が発表されたときにはこれが自動で出てくるというかたちになります。

登録した郵便番号を元に必要な場所にだけ、本当はもう少し狭い範囲でその町丁目の単位で発表したいんですけども、さすがにその郵便番号テーブルを作るというのは非常に労力がかかりまして、私どもの力ではちょっとなかなか難しいところがございますので、現在は市町村を原則とした狭いエリアというふうに考えております。

そしてボタンにこんなふうに、赤は詳しく、青は閉じるという情報を、ボタンを用意しておきまして、例えばマンションの上のほうに住んでいて、この情報については必要ないというような方については青で閉じるというふうにさせていただくと、この場面から消える。詳しくという情報を見ると、データ放送の詳細ページに遷移をするというようなかたちにしております。

仕組み的には、今日は加古川市の方が発表されるというのですがけれども、加古川市であれば市町村コードは 28210。この中で郵便番号は 675-00XX。もしくは 0101 から 0137、03XX と 12XX というふうに郵便番号が割り当てられておりますので、この番号を入力したテレビ。避難情報を市役所のほうから L アラートに入力していただきますと、ここから情報が朝日放送、28210 番の加古川市で避難情報が発表されたというかたちでもたせまして、ここでその市町村コードをこの郵便番号に読み替えます。

そしてその郵便番号で登録をしていただいたエリアにデータ放送いたしまして、この加古川市内のテレビのみに表示をするという仕組みになっています。ですので、私が住んでいるような奈良県天理市ですとか大阪の朝日放送の場所にはこういう表示はなされません。ですので、加古川市の方だけに表示をされるという仕組みになっております。

以前は、私どものデータ放送のページで加古川市でご覧になっている方が d ボタンを押して防災気象、警報、防災気象というページを見ますと、このようなかたちで加古川市に発表されている警報と注意報を見ることができました。

それから、ただ問題は土砂災害警戒情報と、記録的短時間大雨情報、竜巻注意情報は加古川市のページに入っているんですが、これは実は都道府県単位で情報がもたせていますので、この例えば土砂災害警戒情報のページは兵庫県全体の情報になっています。

例えば大阪府であれば、情報ありというふうに発表されているにもかかわらず、詳しいボタンを押すと、堺とか茨木とか岸和田とか、自分とは関係ない地方の情報だったんだというふうに気付くようなデータでしたが、今回、これに合わせて、土砂災害警戒情報もその発表市町村に限定をして伝えるというかたちに変えました。詳しく、どうなっているかご覧いただきたいと思います。

加古川市にあるテレビ、以前はどのようにご覧いただいたかといいますと、特別警報が

出たときにはデータ放送には表示をされませんでした。以前、それこそ 2014 年より以前です。で、警報注意報は先ほどもご覧いただいたとおり、加古川市の情報が加古川市のデータ放送のページに表示をされるわけですが、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報、竜巻注意情報は兵庫県の情報が流れていました。

それから指定河川洪水予報や避難情報については全くデータ放送ではフォローできていませんでした。それを今回、強制表示のシステムを入れまして、避難情報については加古川市から発表された、加古川市内に避難情報が出ましたというかたちで、データ放送のページを突き抜けてテレビ画面上に強制的に字幕を表示します。

指定河川の洪水情報、加古川市の対象になっていますのは、「加古川の下流」ですので、国交省及び気象庁から、この情報が出たときにはレベル 4 以上でデータ放送を突き抜けて強制表示をする。

それから、警報注意報は今までどおり。土砂災害警戒情報は今までは兵庫県だったんですが、加古川市に出たときのみ、加古川市のページに表示をするというかたちにいたしました。このようなかたちが出てくるということです。

詳細ページに飛びますと、このように表示をされます。警報注意報などのところにタリ一を置きますと、下に詳しい情報が出てまいります。これを下にずらしてまいりますと、指定河川は加古川市、下流でレベル 4 が出ましたよということがここに詳細に表示されます。避難情報発表中ですので、ここまで黄色いタリ一を下げたまいりますと、ここに詳しい町丁目の状況が出ています。

それから、市町村の区分では、非常にややこしくございまして、気象庁にいろいろ確認をしますと、大津市の場合、同じ大津市でも、大津市南部と北部で警報注意報の発表エリアが違うということが分かりました。そこで自分の住んでいるところが大津市でも自分の住んでいるところが南部か北部かということを認識していない方はどうするのだということになりましたので、それも郵便番号で全部把握してしまおうと。大津市南部に警報注意報が出たときには、今まででしたら大津市全域に表示をされていたんですが、それを大津市南部、大津市北部というふうに大津市を 2 つに分けて、大津市南部に警報注意報が出たときのみ、このページに表示をするということにしました。

大津市の場合、指定河川が瀬田川と琵琶湖という 2 つございしますので、国交省及び気象庁からレベル 4 以上が発表されましたら、ここで強制表示をします。

大津市の場合、この部分が実はちょっと区分ができておりませんで、大津市さんが避難情報を発表した場合は、これは南部であれ北部であれ、避難勧告以上であれば強制的に字幕が出てしまうという状況になっております。ここは今後の課題かなというふうに思っております。

例えば、大阪の高石市の場合はどうかといいますと、対象指定河川がございませぬ。それから土砂災害警戒情報は高石市は情報の対象外になっています。こういう地域で土砂災害警戒情報(の箱があると)情報が出るかもしれない。土砂災害警戒情報の箱があると「あ、

うちは出ていないんだ」というふうに勘違いをされてしまう可能性がありますので、こういった場合は指定河川洪水予報のページ、それから、土砂災害警戒情報のページをデータ放送ページに表示をしないようにしております。その結果、強制表示をされるのは避難情報と特別警戒のみというかたちになります。情報が対象でない自治体の住民が情報が出ていないから安全というふうに誤認をされないようにちょっと配慮をしているつもりであります。

今日もお越しだと思うのですが、福知山市の場合はどうかといいますと、この場合は土砂災害の警戒情報は旧市町の単位で発表されます。4つの区分に分けて、大江町ですとか旧福知山市街とかっていうかたちで発表されるんですけども、これも郵便番号で判別して、最小単位にしようというふうに考えました。この場合、福知山市だったのは福知山市、大江町など4つの区分に分けて、郵便番号でそれぞれ整理をしております。

先ほども申しましたとおり、福知山市は、避難情報につきましては福知山市の情報が4区分、全部に出てまいります。指定河川の洪水予報も由良川が対象になりますので、4区分全てに出るというかたちになります。ただ、土砂災害警戒情報は、旧大江町に発表されたときのみ強制表示をされるというかたちです。新住民がいつまでも合併前の市町村名を覚えているとは限りませんので、このようにしております。

ご覧のようにページ作成の考え方として、情報によって異なる区分が、いくつかの情報の異なる区分があるんですけども、これを最小単位に分けて、郵便番号テーブルを作りました。それから、テレビに登録した郵便番号で住んでいる場所に必要な情報のみを表示をするというかたちにしております。

もしも高石市のように、先ほど申し上げたとおり、土砂災害警戒情報ですとか、指定河川がないという場合は、このようなかたちの表示形式になっていまして、こういう情報以外には出ないというふうに最初から視聴者は認識をいただいているかと思えます。

こういう表示で留意をした点をいくつか挙げました。生命に直結する4情報に今のところは限定をして表示をしております。それから、住んでいる地域に関係のない情報。つまりテレビはやはり家で落ち着いてご覧いただいているということが多いかと思えますので、関係のない情報は原則として表示をしない。ほかの自治体を見たい場合にはデータ放送で操作をすれば見れるという状況にはなっているんですけども、そういうふうにしております。発表中は視聴者がボタンを押すまでは表示を継続して、見逃しを防ぐようにしております。

先ほど、移動体の話を宇田川さんされたんですけども、私、実は西日本豪雨の日に車を運転して京都市内を走っておりましたら、京都市内を運転しているときには京都市内の情報が車のカーナビには表示をされていまして。そういうふうに位置情報を感知して表示をしてくれてるんだということは認識をいたしました。

それから、これが私どもの局でできたのは、コマーシャルの際に、自動でこの情報を消すことができるというシステムがあったために、これが実現いたしました。といいますのも、データ放送を表示するのはCMであろうがCMでなかろうが、この強制表示が出てし

まうんですけれども、民間放送でございますので、CMにこれがかかってしまいますと問題がございます。ですので、CMのときにはこれがCMであるということを認識をしてその表示を消すということをコマンドとして入れてもらっています。Lアラートの入力をできるだけ信用しまして、自治体の皆さんにはご迷惑をかけないように、確からしきのある情報であると我々が認識できた場合には、役所への電話確認を省略するという事もスタッフの間で申し合わせております。

一つ、課題がございまして、他局の制作をした連動データ放送番組には対応ができておりません。こういった時間帯に放送しております番組、連動データ放送といいまして、東京のキー局のほうにデータ放送を付けて送ってきておりますので、この時間帯にはまだ、今のところは対応できていないんですが、今後、キー局とも協議をして、この時間帯にもできるだけ対応してまいりたいなというふうに思っておりますが、現時点での課題であります。

今後、こういった情報を気象警報ですとか、あるいは地震情報、地震情報は現在は今データ放送によってお伝えをしておりますので、地域限定の強制表示でも放送をできないのか。そうすることによって、よりその地域に必要な情報を絞り込んでお伝えすることができかなというふうに考えております。

それから、系列への拡大。我々、データを作って郵便番号テーブルをせっかく作りましたので、これを例えば系列ですとか、あるいは系列のキー局、それから系列外も含めてもし、広げられるのであれば、ご利用いただけるようなかたちにできないかなというふうにも思っております。24時間365日、全国のテレビで同じような形式の情報がご覧いただけるようになれば、テレビというのも一つの避難情報を受け取るツールとして位置付けていただけるのかなというふうに思っております。

私からの説明は以上になります。もし、何かご質問がございましたら、よろしくお願します。ありがとうございました。